



救つたのか  
殺したのか



# ロストケア

LOST CARE

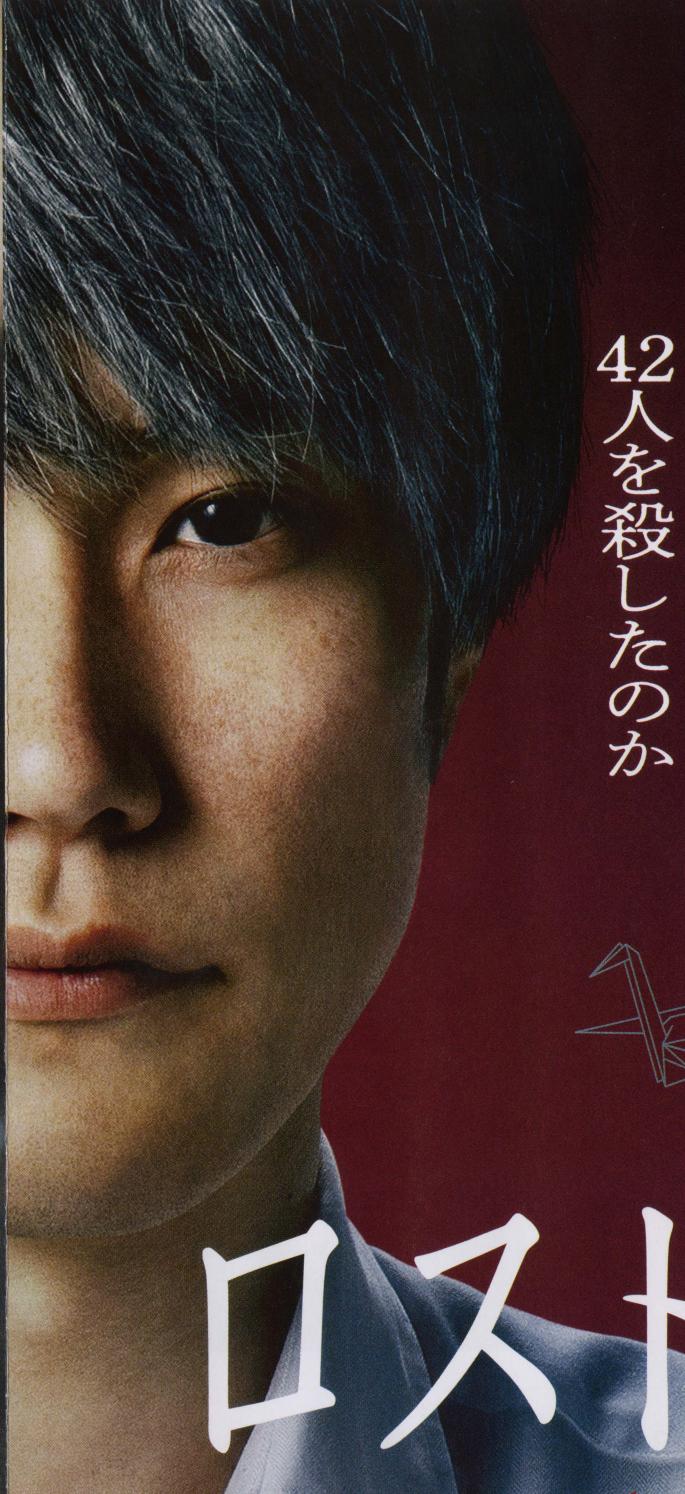
松山ケンイチ 長澤まさみ

鈴鹿央士 坂井真紀 戸田菜穂 岩谷健司 井上肇  
綾戸智恵 梶原善 藤田弓子

柄本明

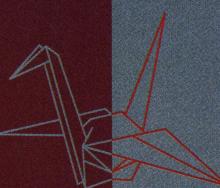
監督:前田哲「そして、バトンは渡された!」こんな夜更けにバナナかよ愛しき実話  
原作:葉真中 題「ロスト・ケア」(光文社文庫刊) 脚本:前田哲 主題歌:森山直太朗「さもありなん」(ユニバーサル ミュージック) 音楽:原 勤利彦  
製作幹事:日活 東京アトム 配給:東京アトム 日活 製作委員会 製作プロダクション:日活 ドクゴンフライ ©2023「ロストケア」製作委員会

2023  
3.24  
ROADSHOW



彼はなぜ

42人を殺したのか



# ロストケア

LOST CARE

松山ケンイチ

鈴鹿央士 坂井真紀 戸田菜穂 岩谷健司 井上肇  
綾戸智恵 梶原善 藤田弓子

柄本明

監督:前田哲「そして、バトンは渡された!」こんな夜更けにバナナかよ愛しき実話

原作:葉真中 題「ロスト・ケア」(光文社文庫刊) 脚本:前田哲 主題歌:森山直太朗「さもありなん」(ユニバーサル ミュージック) 音楽:原 勤利彦

製作:島田和宏、坂田尚志、武田真司、武田義士、新井勝晴、プロデューサー:有重陽一  
ライツプロデューサー:鈴木雅人、アシスタントプロデューサー:河野拓也、後藤一郎、衣笠:高木里江、ヘメイク:本田真理子、装飾:福嶋裕輔  
音響監修:川原貴之、音楽:小畠恭樹、音響効果:赤堀勇二、美術監修:川村洋一、VFX:川村洋一、色彩:佐藤正晃、助監督:土岐洋介、キャスティング:山下葉子、制作担当:村上俊輔、松村隆司  
製作幹事:日活 東京アトム 配給:東京アトム 日活 ドクゴンフライ 製作:日活 東京アトム 東映セブ 東宝芸能 光文社 ©2023「ロストケア」製作委員会



長澤まさみ

LOST CARE

2023  
3.24  
ROADSHOW

殺人犯VS検事 運命の激突—。

# 緊迫の対決、明かされる衝撃の真実、そして…懲りのラスト15分。

松山ケンイチ×長澤まさみ  
初共演の二人が入魂の演技で激突する  
社会派エンターテインメント

日本では、65歳以上の高齢者が人口の3割近くを占め、介護を巡る事件は後を絶たない。この問題に鋭く切り込んだ葉真中頭の第16回日本ミステリー文学大賞新人賞受賞作を、「こんな夜更けにバナナかよ愛しき実話」、「そして、バトンは渡された」の前田哲監督が映画化。介護士でありながら、42人を殺めた殺人犯・斯波宗典に松山ケンイチ。その彼を裁こうとする検事・大友秀美に長澤まさみ。社会に絶望し、自らの信念に従って犯行を重ねる斯波と、法の名のもとに斯波を追い詰める大友の、互いの正義をかけた緊迫のバトルが繰り広げられる。他に鈴鹿央士、坂井真紀、戸田菜穂、藤田弓子、柄本明といった実力派俳優が出演。現代社会に、家族のあり方と人の尊厳の意味を問いかける、衝撃の感動作だ!



映画「メンテーター」 LILICO



## 「ロスト・ケア」著者 葉真中頭

本当に国が抱えているシビアな社会問題と人間が心の奥底に秘めた罪悪感のリアル。どんなに近くしても、どんなに頑張っても、例えどんなに嫌いになって無視したとしてもこれで良かったのか?の気持ちが自分とともに生きつづける。綺麗事を並べて、自分の気持ちを押し殺して、身体と心が張り裂けそうになる。家族の絆と苦悩は他人にはわからない。心が正解なのかもわからない。心の雄叫びが俳優みんなから溢れて…見終わってから自分の心と向き合うことですらちょっと怖くなるテーマをこんなエンターテイメントに仕上げられたのがすごい!



## 彼はなぜ4人を殺したのか。

なぜ? 42人も殺害した男の動機に心動かされるのか?なぜ? 迫り込むはずの検事が、この男に追いつめられてゆくのか? そして、なぜ? 空前絶後の大量殺人に涙してしまうのか? 答えは、すべてこの映画の中にある。紛は呪縛: そう言われて、あなたはどう感じるだろうか? 他人事じゃないすべての人に当たはまる。これは、あなたとあなたの家族の物語。

フリーアナウンサー 笠井信輔



前田監督からお話をいただき「さもありなん」という曲ができました。介護という一つのテーマでも生きている人の数だけ無数の問題と途方もない答えがあつて、何が善・悪なのかはそれぞれ倫理観、置かれている立場によって異なります。大切なのはその「異なり」を寄り添い見守ること。是か非か、ありか無しかを問い合わせより無意識の視点で相手の想いを感じること。「さもありなん」はそんな普遍の優しさから生まれた一曲です。泡と化す宇宙の言葉。境のない世界になることを願いながら。



主題歌 森山直太朗 「さもありなん」



様子がとてもリアルに描かれてます。また、介護を受ける本人の苦しみも描かれており、多く裁判を見てきた私にとっては「まさにその通り」と感じる描写でした。この作品のテーマは「なるべく目を背けていたいこと」なのかもしれません。しかし今の日本が直面している重要な社会問題であり、介護は誰もが少なからず関わることでもあります。ぜひ多くのみなさんにこの映画をご覧いただき、「自分だったらどう受け止めるか」を考えるきっかけにしてもらえたうと思います。

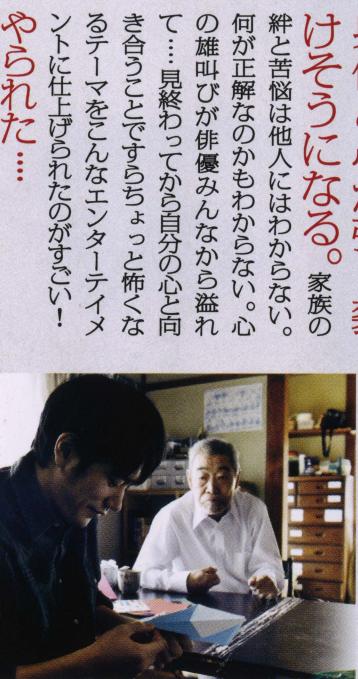
日本福祉大学社会福祉学部教授、  
社会福祉学博士、  
日本福祉大学ソーシャル  
スクールソーシャル研究センター長

湯原悦子



## 私は42人を救いました。

レピチカカード  
オリジナルクリアファイル付き  
ムビチケカード 前売券発売中  
1,500円(税込)  
※クリアファイルはA4サイズです。  
※数量限定 ※一部劇場を除く  
※詳細は作品公式ホームページをご覧ください。



最初は映画化は難しいのではないかと思っていたのですが、まったくの杞憂でした。原作を大友と斯波の対決を中心に掘った人間ドラマにアレンジすることで、核となるテーマを見事に描ききった前田哲監督ほか、スタッフ、キャストのみなさんの手腕に脱帽です。特に松山ケンイチさんと長澤まさみさんの発するセリフのひとつひとつが、観る者への問いかけのよう、原作者という立場を忘れて見入ってしまう感動をしてしまいました。熱演をしてくださったことに感謝申し上げます。最高傑作に素晴らしい作品になったと思う드립니다。

